

高校三年、卒業間近

大橋千佳子

新春の百人一首生涯で最後と言い切り畳をにらむ

「ちは」パシッ。札も進路も一途なり介護の道を乗り切れよ君

年明けもハローワークに向かう子よ愛想笑いは置いていくべし

「バイトから始めようかな」通知見た君の眩きまず受け止める

選択の余地なき自由登校も「自由」とあれば作業捗る

卒業に着るスーツ縫う教室はカウントダウンの加速度を増す

あなたには筆の進まぬこともある大げさもある答辞というもの

入室時退室時には直立し挨拶する子卒業間近

出席をためらう子ありふと思う通過儀礼は誰のものかと

三年を集団生活貫きていざ世に出でん小人数なれど